

## 児童養護施設（ベトレヘム学園）の運営

### 【運営方針】

#### 1. 重点目標

- 1 安全で安心できる居心地の良い施設を目指すことを継続するとともに、特に「暴力のない施設」としていくことを子どもとも共有する。
- 2 職員それぞれが自分の強みを活かして施設やチームに貢献することを意識することでやりがいの向上に繋げ、人材定着を図る。
- 3 職員のメンタルヘルスケアや職場環境向上に力を入れ、離職を防ぐ。

#### 2. 年間目標

- 1 法人・施設の理念、方針について職員が理解を深める取り組みを行う。
- 2 お互いのホーム運営、児童についての理解を深めて、多様性を重視した協力体制をつくる。その為他ホーム1日体験を継続する。
- 3 ナザレットの家乳児院の「地域子育て支援準備室」と連携をして、地域の子育て支援を進めていく。

#### 3. 中長期計画

- 1 令和元年10月4日付厚生労働省発令の「小規模グループケア実施要綱」に沿い、令和7年3月31日までに小規模グループケアの定員を全ホーム6名とする。
- 2 地域分散化(グループホームの開設)については、子どもの特性や職員体制、物件確保の困難等の理由から、計画を再構築する。
- 3 施設の多機能化に関しては、子育て支援の他に本園の空いたホームを利用した卒園生支援等を検討する。

### 【人員体制】

施設長（会計責任者） 鈴木 ますみ

職 種		定 数	令和4年度3月末見込 常勤換算数（実人員）	令和5年度配置計画 常勤換算数（実人員）
国 基 準	施設長	1	1(1)	1(1)
	(副施設長)	—	(家庭支援専門相談員兼務)	
	事務員	1	2.7(4)	2.7(4)
	保育士・児童指導員	20	28.9(30)	31.7(33)
	個別対応職員	1	1(1)	1(1)
	家庭支援専門相談員	1+1(加算)	2(2)	2(2)
	栄養士	1	1(1)	1.8(2)
	調理員等	4	4(4)	2(2)
	嘱託医	1	(精神科医と兼務)	(精神科医と兼務)
	加 算	看護師	1	1(1)
里親支援専門相談員		1	1(1)	1(1)
心理療法担当		1	1(1)	1(1)
自立支援担当		1	1(1)	1(1)
地域小規模児童指導員		8	7(7)	7(7)
都 基 準	保育士・指導員 (専門ケア職員加算)	1	1(1)	1(1)
	治療指導担当職員	1	0.8(1)	2.6(3)
	小児精神科医	0.2	0.4(4)	0.4(4)

合計	45.2	53.8(60)	58(65)
----	------	----------	--------

### 【利用実績等】

	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込み	令和5年度目標
定員	57人	57人	57人	57人
実績等	45人	49人	49人	52人
利用率	78.9%	85.9%	85.9%	91.2%

### 【支援方針】

#### 1. 重点目標

子どもたちが自分の意見を尊重され、大切にされていると感じられるような支援を行い、自立(自律)に繋げていく。

#### 2. 年間目標

- ① 子どもの権利やアドボカシー(意見表明権の擁護)について職員が理解を深める。
- ② 子ども一人ひとりのストレングス(強み)を伸ばし、子どもの自己肯定感を高める支援を行い、自立に繋げる。

### 【災害対策】

- ① 感染症対策は、国の動向に応じて都度見直しを行う。
- ② ナザレットの家との防災訓練を、月に1回行う。
- ③ 白梅自治会との合同防災訓練の再開を検討する。
- ④ 危険個所の点検や、防犯対策の見直しを随時行う。

### 【地域との連携】

- 1 白梅自治会との行事の共催を順次再開する。
- 2 清瀬市内の地域支援ネットワークへの参画を継続する。
- 3 地域交流ホールの外部貸し出しを、順次再開する。

### 【職員の質の向上】

- 1 職員は階層別スキルをもとに各自目標成果シートを作成し、リーダー、副主任、主任、正副施設長による育成面談を年2回行う。
- 2 施設長との面談を、少なくとも年1回行う。
- 3 2年目3年目職員を対象とした育成プログラムを体系化する。
- 4 状況をみながら職員同士の意見交換の場を作る。